

森清信子

Montepio Nobuhiko

句集

露の堂



作者はひたむきに明日を信じて、丁寧な今日を生き、四季の自然に姿と色と香を感じている。自然に心を開き、自然のいのちを俳句にとどめる。時には星に未知への扉を思う。師や父母の亡き魂を鎮め、日常生活の平和と未来を信じて祈り、俳句と共に生きる。

坂口昌弘

ひたむきに
明日を信じて
林檎むく

奔
放
と
無
縁
に
過
ご
し
梅
真
白

枝
垂
梅
影
の
し
だ
る
る
風
日
和

人肌の日差に目覚め
露の臺

初燕海へせり出す
レストラン

蹄鉄を打つ間を逸り
春の駒

乙女騎手ひらりと鞍に
木の芽風

掃き寄する芯の重たき椿かな

啓蟄や野を広げゆく水の音

石庭の砂紋のゆるび春の風

げんげ田の踏み入りがたき匂ひかな

良き顔の人ばかりなる桜かな

もののけの隠れをるかに夜の桜

花冷やシテの嘆きを鏡板

梵鐘の傾くごとし花吹雪

菜の花の涯よりこぼれ遠汽笛

白波の白より生まれ春鷗

要塞の囀る島となりけり

花桃や産着干さるる空の青

待つ人の帰る頃あひ木の芽和

春愁や凧ぎて動かぬ遠白帆

葉山まで一望の丘鳥雲に

子の発つ日都忘れの咲きにけり

水浴の像の二の腕新樹光

杉木立透くる瀬音や夏桔梗

雨脚の見えて音なし花うつぎ

山百合の潮に染まらぬ香りかな

春くや風の離れぬ罌粟の花

谷戸奥に流れ一本初蛩

いつの間にか夫と涼しき間合ひかな

小路より酢を打つにほひ夕薄暑

花 菖蒲 秘めし 絞りを 解き けり

は ら か ら と 離 れ 育 ち て 夕 螢

青 葉 若 葉 の 著 き 濃 淡 山 動 く

明 易 の 葉 を ひ る が へ す 蘇 鉄 か な

時として夫と子遠し冷奴

風鈴やなかなか冷めぬ離乳食

手相見の下町言葉火蛾の夜

走り梅雨もつれて解けぬネツクレス

床の間のなき気楽さよ青簾

山頂の雲ぬぐ迅さほととぎす

山雨霽れ長茄子の紺匂ひ立つ

蟬時雨空は真青のがらんだう

もう飛べぬ手のひらの蟬如何にせむ

向日葵と話して少女車椅子

揚花火半端に生きて来し思ひ

知床の孤独なる鹿晩夏光

引潮の鞆す浜砂涼新た

爽涼や足裏を映す寺の廊

赤蜻蛉茜とともに引きにけり

夕映えの芒野梳きて硫黄の香

著者略歴

森清信子（もりきよ・のぶこ）

昭和 22 年 福島県郡山市生まれ
平成 9 年 「末黒野」俳句会入会
平成 12 年 「末黒野」同人、新人賞受賞
平成 19 年 「末黒野」風雪賞受賞
平成 20 年 「末黒野」風雪賞受賞
平成 21 年 「末黒野」乙矢集同人
平成 25 年 「末黒野」年度賞受賞
平成 26 年 「末黒野」甲矢集同人
現在に至る

公益社団法人 俳人協会会員

令和四季コレクションシリーズ 16

句集 露の堂 つゆのどう

令和二年八月一日 初版発行

著者 ● 森清信子

発行人 ● 西井洋子

発行所 ● 株式会社東京四季出版

〒129-0603 東京都東村山市栄町二丁目二二八

電話 ○ 四二二三九九二二八〇

FAX ○ 四二二三九九二二八一

shibook@tokyosiki.co.jp

<http://www.tokyosiki.co.jp/>

印刷・製本 ● 株式会社シナノ

定価 ● 本体二七〇円＋税

© Moriakiyo Nobuko 2020. Printed in Japan
ISBN 978-4-8129-1015-3

乱丁・落丁本はおとりかえいたしません